

優秀賞

わたしとアレルギーのお母さん

桶川小学校四年 大金 優衣

食べ物アレルギーを知っていますか。アレルギーのある食べ物を食べると、体に色々なしよようじようが表れます。人によつてしようじようはちがいます。たとえば、こきゆうが苦しくなつたり、体にブツブツができたり（じんましんと言います）、おなかがいなくなつてげりになったりします。わたしは、食べ物アレルギーの人のために薬を作る、薬ざいしになりたいたいと思っています。

なぜ薬ざいしになりたいかというところ、わたしのお母さんが去年、食べ物アレルギーになつてしまつて、今まで食べていたものが食べられなくなつてしまいました。お母さんの食べ物アレルギーは、たまご（らん白）と牛乳です。お医者さんから、たまごと牛乳を食べ

ないようにと言われたお母さんは、買い物をする時には、食べ物のふくろの後ろを見て、原材料にたまごと牛乳が入っていないか、たしかめます。でも、たまごと牛乳が入っていないか、いつも気にしていても、食事をして具合が悪くなることもありました。それは、牛乳と書いていなくても牛乳が使われていることがあつたからです。

たくさんのお母さんに、たまごと牛乳が使われているか、お母さんといっしよに原材料をかくにんしているか、何でこんなものにたまごと牛乳が使われているのか、というものがたくさんありました。ウインナーやベーコンなどにも入っていました。たくさんのお母さんに、たまごと牛乳が使われていることには、お母さんはたくさんのお母さんが食べられませんでした。たまごは、たまごだけ食べられないのではなく、パンや天ぷらなども食べられなくなりました。おかしにもたまごが使われています。牛乳は、チーズやヨーグルトにも使われています。それも食べられませんか。お店で買ってきたごはんもたまごと牛乳が入つてい

食べられません。だから家族みんなでごはんを食べに行くことは、少なくなりました。だからお母さんはわたし達のために、ごはんをいつも作ってくれます。たまごと牛乳を使わなくてもいい料理を作ってくれますが、たまに、たまごや牛乳を使った料理を作ると、

「味はわからないから。」

と、味見をおねがいされます。お母さんは

「おいしいものが食べたい。」

と言います。大好きだった生クリームのケーキも食べていません。わたしは、いちごや牛乳、パンなどが好きです。もしその食べ物にアレルギーがあつて、好きだったものが食べられなくなると思ったらいやだし、悲しいです。

お母さんはアレルギーの食べ物を食べるとすぐに薬を飲みます。薬を飲むと、体に出るしようじょうが少なくなるそうです。わたしはその薬を見て、まほうの薬だと思いました。今まではぜっ対に食べちゃいけないものが、少しだけなら食べても平気になりました。

わたしは、お母さんが食べ物アレルギーに

なったことがきっかけで、食べ物アレルギーをもつ人の役に立ちたいと思うようになりました。今まで食べていたものや、大好きなものが食べられなくなるのは、とても悲しいことです。大好きなものを食べると、とてもうれしくて幸せな気持ちになります。だから食べ物アレルギーがこの世界からなくなってくれるといいなと思います。

お母さんが飲んでいるような、食べてはいけないものを食べてしまった時の薬だけではなく、食べ物アレルギーがなくなる薬を作りたいです。そんな薬が作れたら、食べ物アレルギーで苦しむ人がいなくなつて、みんな幸せになれると思います。だから、薬ざいしになるために、学校の勉強をたくさんしようと思います。それから、たくさん自分の好きなものをおいしく食べられることに感しゃして、ごはんを食べようと思います。

「お母さん、いつもごはんを作ってくれてありがとう。いつかわたしが、食べ物アレルギーを治す、まほうの薬を作るから待っててね。」